

「インドネシアパプア地域をめぐるポリティクス
～その地政学的・地経学的特徴を読み解く～
フィールドワーク実施報告書

学籍番号 72006172 総合政策学部 4年 長澤パティ明寿

1、研究概要

本研究は「地政学 (Geopolitics)」・「地経学 (Goeconomics)」という国際関係の分析アプローチを軸にパプア（本研究においては、インドネシア共和国パプア州、山岳パプア州、南パプア州、中部パプア州、南西パプア州、西パプア州を含む地域と定義）におけるポリティクスの現状について考察を深めるものである。各国が積極的な地政学的外交政策を展開し、パワーの衝突が激しさを増しているアジア太平洋地域。今後の国際社会や国際関係を展望する上で「大国の狭間」に存在する地域を理解する重要性が指摘される中、東南アジアや太平洋島嶼国は特に米国と中国による影響力拡大の駆け引きの場として、その影響を様々に受けている。

研究の舞台パプアはその歴史的背景、社会的背景を要因にインドネシアからの分離独立を求める動きが続く地域である一方、豊富な天然資源と地理的資源を有している。

アジア太平洋地域において地政学的外交政策が盛んに展開され、また、豊富な天然・地理的資源をめぐる各国がパプアに関心を示す中、パプアの有する地政学・地経学的重要性は高まっていくのではないかという仮説が浮かび上がる。

目まぐるしく変化する国際情勢とパワーポリティクスの中、内外に複雑な課題を抱えるパプアでは、「諸外国がパプアをどのような視点で捉え、あるいは、どのような影響をもたらしているのか、そのアクターを分析する (RQ1)」とともに「パプアが今後いかなる地政学・地経学的意味を帯びていくと考えられるのか (RQ2)」アジア太平洋地域をめぐる地政学・地経学的競争とパプアの分離独立の行く末を展望する一助として捉えることを RQ としている。



2、フィールドワーク概要

実施日時：2024年8月15日～2024年9月26日

実施場所：インドネシア共和国ジャカルタ、ジャヤプラ、
ビアク、インドネシア-パプアニューギニア国境地帯



3、各フィールドワーク実施地における活動

○ジャカルタ (Jakarta、ジャカルタ特別州)

FPCI (The Foreign Policy Community of Indonesia) 関係者、在インドネシア日本国大使館関係者と昨今のパプア情勢について情報・意見交換を実施。また、インドネシア独立記念日 (8月17日) の記念式典視察および福祉友の会 (Yayasan Warga Persahabatan) カリバタ英雄墓地参拝に参加。

○ジャヤプラ (Jayapura、パプア州)

UNCEN(国立チェンドラワシ大学)経済学部の授業に参加するとともに、パプアに関する調査・研究・政策提言活動を行う団体 APS (Analisis Papua Strategis) 関係者と情報・意見交換を実施。また、ジャヤプラ市内に所在する高校の日本語の授業や、子供たちに外国語の授業を行う NGO の活動に参画¹し、現地社会とのネットワークを深めた。加えて、2024年11月27日投票の地方首長選挙に向けた状況についても情報収集を行った。

○ビアク (Biak、パプア州)

第二次世界大戦関連史跡(第二次世界大戦慰霊碑、西洞窟、フランス・カイセポ空港)視察、令和6年度慰霊巡拝参加者へのインタビューを実施。また、ビアク島に所在する遠隔測定・追跡・制御(TCC)地上局を訪問、BRIN(インドネシア国家研究イノベーション庁)担当者への聞き取り調査を実施した。

○インドネシア-パプアニューギニア国境地帯

インドネシアパプア州とパプアニューギニア西セピック州にまたがる国境地帯を視察。入国管理施設である SKOUW、ローカルマーケットを見学。また、国境地帯で UMKM(中小零細事業)を営む方々にインタビュー調査を実施。2024年5月9日に行われたルトノ・マルスディ(Retno Marsudi)インドネシア外相とパプアニューギニア外相の国境視察の様子²や昨今の国境地帯地域活性化プロジェクトの状況についてヒヤリングを行った。

4、終わりに

総じて、今後の卒業プロジェクト執筆へ向けた大変有意義なフィールドワークとなった。特に、ビアク島遠隔測定・追跡・制御(TCC)地上局での調査においては、「ビアク島が南緯1度という赤道直下に位置しており、島の東側に広い海が広がる地理的環境のため、ロケット打ち上げにかかるコストが低下することが考えられ、インドネシア中央政府の下ロケット発射場(宇宙空港)の建設が予定されているとの情報に接した。また、本計画にはロシア、インド、米国等のファクターがあることも分かった。この点、パプアの有する地政学・地経学的意味を考察する上でも重要な情報となるはずである。引き続き補足情報や背景情報の調査を行っていきたい。

5、謝辞

この度のフィールドワーク実施につき、ご支援賜りました慶應 SFC 学会様に心より感謝申し上げます。また、フィールドワークに際しご協力いただきましたインドネシアの皆様、日頃より研究会にてご指導いただいております渡辺靖先生に御礼申し上げます。

¹ TEMPO WITNESS.Mahasiswa Jepang jadi Relawan di Rumah Belajar Jayapura.2024年9月21日。
<https://witness.tempo.co/article/detail/9296/mahasiswa-jepang-jadi-relawan-di-rumah-belajar-jayapura.html>

² BNPP.BNPP Sambut Kunjungan Menlu RI dan Menlu PNG di PLBN Skouw.2024年5月10日。
<https://bnpp.go.id/berita/bnpp-sambut-kunjungan-menlu-ri-dan-menlu-png-di-plbn-skouw>